

外国人集住都市会議の新たなあり方について

1 外国人集住都市会議のこれまでの活動

- 2001年、南米日系人が多数居住する都市により創設
- 参加都市間の情報交換
- 外国人住民に関わる諸課題の解決に向けた取組み
- 首長会議や関係省庁等を交えた会議の開催
- 国等に対する外国人に関わる施策の提言 など

2 社会状況の変化

- リーマンショック以降、南米日系人が減少傾向
- 定住化の進行が顕著
- アジア諸国の外国人が増加傾向
- 国レベルでの一定の取組み
- 外国人労働者の受け入れ議論の加速
- 多様性を都市の活力とする考え方の広がり など

3 主な考え方

- **会議の目的**：外国人住民に関わる課題の解決や支援とともに、外国人住民の多様性をまちづくりに生かすという観点を、会議の主要なテーマとする。
- **参加都市**：外国人住民に係る施策や活動を進める都市及び同地域の国際交流協会により組織する。
- **会議の運営**：これまで以上に、参加都市間の連携や情報交換、課題の解決や新たな取組に重点を置いた運営とする。

4 検討経過

- 昨年10月の全体会において新たなあり方の議論を開始
- 6都市で構成する「あり方検討会議」において、各都市の現状やこれまでの取組みを踏まえ、今後の方針や体制等を検討
- 準備会議を含め、これまで5回の会議を開催、2回にわたり全都市への意見聴取を実施
- 本年10月の全体会において、新たなあり方の方向性を承認
- 来年2月の全体会において規約等の変更を行い、来年度から施行